

## 本書の特長と使用法

大学入試の英語では長文読解が重要な位置を占めているのは言うまでもないことである。特に国立二次試験では、正確な長文読解力をもとにして内容説明、要旨要約などの論述形式の出題が主流となっており、受験生には英語の基本的な知識（語彙、文法語法）だけではなく、構文・文脈の把握力、内容を再構成する力が求められている。一方、大学ごとに一定の出題パターンがあることも事実である。大学入試の英語で高得点を取るためには、基本的な英語力があって「英語がわかる」「設問が解ける」ことが最も大切であるが、設問の意味（出題者の意図）に合わせて解答を作成する力も必要である。

本書は長文読解力の養成と大学入試問題の実戦演習を目的として編集されている。難関国立大学と称される全国10大学から最近の入試問題を厳選し、長文読解問題における記述・論述の設問形式を網羅し、話題も幅広いジャンルに及ぶように配慮してある。また、本文の英語は語彙、文法、構文の視点から英語学習上で重要なものが数多くあり、本文を精読することによって英語力を飛躍的に伸長することが可能である。

### ◇多様な利用方法

本書は **PART I** が11題、**PART II** が11題あるが、時間が限られている場合には **PART I** だけを学習しても一定の成果が上がるようにしてある。また、テーマ別に学習を進めたい場合には目次にテーマが明示してあるのでそれに従って順番を替えて行うことも可能である。

※本文の読解時間および設問の解答時間を配慮して、実際の入試問題の本文の一部を省略した問題があります。

### ◇効果的な学習方法

- (1) 試験場に臨んだ気持ちで与えられた目標解答時間内で解答を作る。
- (2) 英文全体を辞書等で調べながら精読する。正しく読めているかどうかを確認する上でも英文和訳の演習の意味でも全訳を書いてみる。
- (3) 本文全体の内容と出題の意図を推し量りながら自分の解答を検証、吟味してみる。
- (4) 一定の期日をおいて必ず復習する。復習することで身につくものは非常に多い。復習しないのは苦勞して木を育てながら果実を収穫しないのと同じである。

### ◇学習上の指針

英文を読むときには全体として何が言いたいのかという強い問題意識をもち、核心に挑みかかる姿勢が必要である。問題を解くときには何となく答えが出たというのではなく、答えに至るまでのプロセス、解答の決め手をはっきりと自覚することが重要である。また、歯ごたえのある素材もあれば、一見易しく見える英文もある。見かけ上の難易に惑わされてはいけぬ。英文の易しさから問題を甘く見て侮ると思わぬ誤りを犯す。難問と思われる問題も、諦めずに読み直せば解答へのヒントが隠されているものである。問題に対してはいろいろな可能性を考慮しながら全力で取り組む姿勢が肝要である。難問奇問ではなく、良質の英文を精読して基本を徹底的に身につけることが合格への道であることを忘れずに勉強を続けてほしい。

## ◇英文要約・日本文要約について

大学入試の読解問題で取り上げられる箇所は、「文脈を正しく捉えているか」を確認するものがほとんどである。一見平易な文章や語句であっても、それを文脈に即して理解できているか、を問うのである。この傾向はいわゆる難関大の作問傾向に見られる。なぜなら、文脈を捉えること＝相手の言いたいことを正しく掴むこと、はコミュニケーションの基本だからである。

ともすると我々は「木を見て森を見ず」のことがある。受験生も同じである。例えば次の問題例は、下線部の語の言い換えを問われている。

As adults we still play, but more deliberately. We tend to schedule our play time — when we can find time to schedule.

- ① freely      ② physically      ③ purposefully      ④ regularly

受験生は覚えたての‘deliberately’の意味を一生懸命思い出そうとするが、出題者は語彙の知識を求めているのではない。「文脈」からこの語の意味を類推せよ、と言っているのである。つまり、後に続く文の内容‘to schedule our play time’から‘purposefully’を読み取れるか否かを確認しているのである。

読解力とは語彙力や構文力を指すだけでなく、それらの力を総合して全体像を把握する力、つまり「要は何を言いたいのか」を読み取る力である。逆に言えば、全体像が見えていれば、そこから個々の部分を推測する読み方ができるのである。この全体像こそが「要約」である。

本書では各問題ごとに、100語以内の英文要約、200字以内の日本文要約の問題を掲載している。全体を読み終わった後に挑戦してみよう。そして解答解説にある英語・日本語の要約文を眺めて欲しい。そう、こういうことが書いてあったのだ、と納得できればよいし、また、そうか、こういうことを言いたかったのか、と全体を把握してから、もう一度森の中に入っていてもよい。

## ◇音声 CD の使用法

英語の学習では、英文を目で追うだけでなく、音声を耳で聞くことも大切な要素である。本書では、問題の本文をネイティブ・ナレーターが読み上げた音声 CD を用意し、音声を併用することにより、さらに深く英文を理解することができるよう配慮したつもりである。CD の使い方はさまざまであるが、一度にまとめて聞くよりも、1 レッスンごとに集中して繰り返し聞くことをお勧めしたい。また、少しずつでも毎日継続して聞けばリスニング力の向上につながり、大学入試のリスニング対策にも効果を発揮するはずである。

### ◇ 出典 ◇

#### PART I

- |         |          |        |
|---------|----------|--------|
| 1 北海道大学 | 2 東京大学   | 3 神戸大学 |
| 4 名古屋大学 | 5 東京大学   | 6 神戸大学 |
| 7 東北大学  | 8 東京工業大学 | 9 東北大学 |
| 10 京都大学 | 11 一橋大学  |        |

#### PART II

- |           |         |          |
|-----------|---------|----------|
| 12 神戸大学   | 13 東京大学 | 14 九州大学  |
| 15 九州大学   | 16 大阪大学 | 17 北海道大学 |
| 18 大阪大学   | 19 一橋大学 | 20 京都大学  |
| 21 東京工業大学 | 22 一橋大学 |          |

# 目次

## PART I

<b>Lesson 1</b>	(人文科学)	食の文化と安全 [DISC 01-01] .....	10
<b>Lesson 2</b>	(自然科学)	地中の小さな発見 [DISC 01-02] .....	16
<b>Lesson 3</b>	(小説)	小さなマーサ [DISC 01-03] .....	20
<b>Lesson 4</b>	(社会科学)	テーブルに置かれたスマホ [DISC 01-04] .....	24
<b>Lesson 5</b>	(人文科学)	コーヒーハウスの役割 [DISC 01-05] .....	30
<b>Lesson 6</b>	(社会科学)	選択の主導権 [DISC 01-06] .....	34
<b>Lesson 7</b>	(人文科学)	「ある程度」の年齢になる [DISC 01-07] .....	40
<b>Lesson 8</b>	(社会科学)	偶然の出会い [DISC 01-08] .....	44
<b>Lesson 9</b>	(自然科学)	Anthropocene という時代 [DISC 01-09] .....	48
<b>Lesson 10</b>	(人文科学)	あなたの知らない物理学 [DISC 01-10] .....	52
<b>Lesson 11</b>	(社会科学)	「最後通牒ゲーム」 [DISC 01-11] .....	56

## PART II

<b>Lesson 12</b>	(人文科学)	宗教と因果応報の考え方 [DISC 02-01] .....	64
<b>Lesson 13</b>	(小説)	母と娘の見えない葛藤 [DISC 02-02] .....	68
<b>Lesson 14</b>	(自然科学)	風力発電の功と罪 [DISC 02-03] .....	74
<b>Lesson 15</b>	(小説)	銀色の蛾 [DISC 02-04] .....	78
<b>Lesson 16</b>	(社会科学)	マシュマロでわかる将来 [DISC 02-05] .....	82
<b>Lesson 17</b>	(社会科学)	移民の変遷 [DISC 02-06] .....	88
<b>Lesson 18</b>	(社会科学)	イギリス人と犬の関係 [DISC 02-07] .....	94
<b>Lesson 19</b>	(人文科学)	知識の獲得とその功罪 [DISC 02-08] .....	100
<b>Lesson 20</b>	(社会科学)	アメリカ史の中心とその周縁 [DISC 02-09] .....	104
<b>Lesson 21</b>	(自然科学)	道化者の遺伝子 [DISC 02-10] .....	108
<b>Lesson 22</b>	(社会科学)	ツイートは災害から人を救えるか? [DISC 02-11] .....	114

### テーマ別目次

自然科学	Lesson 2, 9, 14, 21
社会科学	Lesson 4, 6, 8, 11, 16, 17, 18, 20, 22
小説	Lesson 3, 13, 15
人文科学	Lesson 1, 5, 7, 10, 12, 19

**Lesson 1**

(人文科学)

**食の文化と安全**★☆☆  
20分

◆次の英文を読んで、後の設問に答えなさい。

5

10

著作権の都合上、サンプルでは省略しています。

15

20

25

30

35

40

45

(北海道大・588 words)

問1 下線部(1)で、空欄 ( a ) に入る最も適切な語句を、(A)~(D)から選び、記号で答えなさい。

- (A) as is clear
  - (B) as is fresh
  - (C) as they are
  - (D) as unclean
-

問2 下線部(2)を日本語に訳しなさい。

---

---

---

問3 下線部(3)の空欄 ( b ) に入る語 ( 1 語 ) を書きなさい。

---

問4 下線部(4)を日本語に訳しなさい。

---

---

---

問5 下線部(5)の理由として最も適切なものを、(A)～(D)から選び、記号で答えなさい。

- (A) Eating raw chicken eggs or unpeeled fruits can be dangerous in certain conditions because of harmful bacteria or pesticides.
- (B) Eating unpeeled apples or grapes may cause weight gain.
- (C) Only young children and elderly people are vulnerable to particular bacteria.
- (D) Beliefs about what is considered delicious actually come from better understanding of food preparation.

---

問6 本文の内容と一致するものを, (A)～(G)から3つ選び, 記号で答えなさい。

- (A) By food preparation processes, the author exclusively means the use of heat.
  - (B) Culturally established ways of consuming food may conflict with scientific principles of food safety.
  - (C) In some food cultures outside Japan, fish in its raw state is not categorized as an edible foodstuff.
  - (D) People having little contact with other cultures tend to view their own food-related conventions as natural and standard.
  - (E) Repeated exercise is required for the mastery of any food preparation.
  - (F) Instinct alone determines what and how people eat.
  - (G) All cultures around the world consider it natural to eat unpeeled fruit.
-



## Lesson 1 食の文化と安全

【全訳】

著作権の都合上、サンプルでは省略しています。

## 【考え方】

問1 正解は(C)。空欄の直後に、that is という表現がある。that is は「すなわち、つまり」という意味で、言い換えを表す表現。すなわち、空欄(a)の内容が言い換えられたのが、without 以下の「洗ったり、皮をむいたり、熱したりといったいかなる調理もなしで」という部分なので、これと同じ意味になる表現を選ぶ。as they are は、「それらが(今)そうである状態のように」が直訳で、そこから「そのまま」と訳すことが出来る。Leave it as it is. 「そのままにしておきなさい」がその類例。

問2 正解は「日本の消費者は刺身の質は、それが生であるという事実と直接的に結びついているということを当然のことと考えている」。

1. **Japanese consumers take it for granted that ...** 「日本の消費者は…ということ」を当然のことと考えている」 take A for B は、「AをBだと思ふ」という意味の熟語。さらに、grant は元々、“～を与える、認める”という意味の他動詞だが、それが過去分詞の形で使われ“与えられたもの→すでに持っているもの→当たり前”という風に意味が流れ、その結果、take A for granted で、「Aを当然だと思ふ」という意味になる。今回はさらに、Aの部分に形式目的語のitが使われており、その中身がthat 以下ということになる。
2. **the quality of sashimi is directly related to the fact** 「刺身の質は…事実と直接的に結びついている」 the quality of sashimi が that 節の主語。be related to A で「Aに結びついている、Aと関係がある」という意味の表現。これを副詞の directly が修飾しているので「直接的に結びついている」と訳す。
3. **that it is raw** 「それが生であるという」ここでの従属接続詞 that は、直前の名詞 the fact の同格節を導いており、その名詞の中身を補足的に説明している。

問3 正解は **for**。in order to - は「-するために」という目的の意味を表す、不定詞を含む表現。空欄の後ろに to be considered があり、その前に them があることから、この them は不定詞の意味上の主語であると気づけたかどうかのポイント。in order for A to - で「Aが-するために」という意味になり、それがわかれば、空欄に for を入れられたはず。

問4 正解は「木からリンゴをもいで、それを食べることに健康的でおいしいものなんて存在し得ない」。

1. **What could be** 「…ものなんて存在し得ない」ここでの助動詞 could は、過去形にすることによって仮定法的に使われており、「仮に…なものがあるとして、そんなものが存在し得るだろうか、いやない」という反語的な意味合いで使われている。字義どおりに「存在し得るだろうか」と訳しても構わない。
2. **more healthy and delicious** 「…以上に健康的でおいしい」等位接続詞 and で healthy と delicious という2つの形容詞が並べられている。
3. **than picking an apple from the tree and eating it?** 「木からリンゴをもいで、それを食べることに」等位接続詞 and で picking ... と eating ... という2つの動名詞で始まる句が並べられており、この部分が比較の対象として than の後ろに置かれている。

問5 正解は(A)。「生卵や皮をむいていない果物を食べることは、有害な細菌や殺虫剤のため、ある条件においては危険な場合がある」

パラグラフの流れは、まず最初に意見・主張(トピックセンテンス)を述べ、次にそれに対するサポート(証拠・具体例)が続き、最後に最終結論を書くのが基本。下線部(5)の位置を確認すると、パラグラフの最後であり、So の後ということから結論部だとわかる。そこで、その前にこの結論を裏付けするサポートが来ているはずだと考える。第4パラグラフでは、一般論から入り、However でひっくり返しているため、第2文(However, there is no ...) がトピックセンテンス。この文に、「ある一般的な調理法が、科学的な観点からは危険であるということに疑いはない」とあり、第4文(If

chicken eggs are ...) に、「もし鶏の卵が適切に保存されていなかったり、長い間食べられないまま放っておかれると、サルモネラのような細菌を簡単に生み出す可能性がある」とある。続く第6文 (In addition, while eating ...) には、「リンゴやブドウの皮を食べることは…殺虫剤もまた食べてしまうという危険を冒すことになる」とあるので、これらに合致する(A)が正解。他の選択肢の意味は次の通り。(B)「皮をむいていないリンゴやブドウを食べることは、体重の増加を引き起こすことがある」、(C)「幼い子どもやお年寄りだけが特定の細菌に対して弱い」、(D)「おいしいと考えられているものについて信じられていることは、実際に食べ物の調理に関するより良い理解から来ている」

問6 正解は(B), (C), (D)。

- (A) 「食べ物の調理工程という言葉で、著者は熱を使うことだけを意味している」第1パラグラフ第4文 (For example, in one ...) に「洗ったり、皮をむいたり、熱したりといったいかなる調理もなしで」と色々な調理法について言及しており、これと一致しない。
- (B) 「文化的に確立された食物消費の方法は、食物の安全に関する科学的な原則とは矛盾することがある」第4パラグラフ第2文 (However, there is no ...) に、「しかしながら、ある一般的な調理法が——もしくは、時にはある調理工程がないことが——科学的な観点からは危険であるということに疑いはない」とあり、これに一致する。
- (C) 「日本以外の一部の食文化においては、生の状態の魚は、食べることが出来る食材には分類されていない」第2パラグラフ第6文 (In these cultures, sashimi ...) で「このような文化では、刺身は生で、おいしく、食べるのに安全であるとはみなされず、それがどのような味がするかに関係なく、むしろ調理されておらず、そしてそれゆえにおそらく食べるのに危険であると考えられる」とあり、これに一致する。
- (D) 「他の文化とほとんど接触のない人々は、自分自身の食に関する慣習を自然で標準的なものだと見ながちである」第2パラグラフ第1文 (It is often difficult ...) に「同じ文化の人々がそのような活動や信念を客観的に見ることはしばしば困難である。そして、それゆえに、他の文化の食生活を目撃すると、驚くこともあり得る」とある。これは裏を返すと、他の文化との接触がなく、自分たちのことしか知らないと、自分たちのやっていることを当然とってしまうために起こると考えられ、これに一致する。
- (E) 「いかなる調理法を習得するにしても、繰り返し練習を行うことが必要だ」調理法の習得や、それに対して繰り返し練習を行う必要があるという記述は、本文中にはない。
- (F) 「生得的な行動傾向のみにより、人が何をどのように食べるかが決定される」第1パラグラフ第2文 (However, exposure to different ...) に、「しかしながら、異なる文化に触れることによって、食べ物の安全と味に対する人々の考え方のすべてが生得的なものとも、生物学的なものとも限らないということが明らかになる」とあり、これと一致しない。
- (G) 「世界中のすべての文化で、皮をむいていない果物を食べることが自然だと考えられている」第3パラグラフ第2文 (For example, few Japanese ...) に、「例えば、リンゴやブドウの皮を食べる日本人はほとんどいないであろう」とあり、これと一致しない。

**解答**

問1 (C)

問2 日本の消費者は刺身の質はそれが生であるという事実と直接的に結びついているということを当然のことと考えている。

問3 for

問4 木からリンゴをもいで、それを食べることに健康的でおいしいものなんて存在し得ない。

問5 (A)

問6 (B), (C), (D)

**要約文**

**Attitudes towards food safety differ between societies. What is considered normal in one culture is often viewed as dangerous (or disgusting) in a different culture. In general, we should be aware that while attitudes may differ, there are also scientific reasons why we should be careful about certain ways of preparing and eating food. (54 words)**

美味しくて安全な食べ物を食べたいという考えは万国共通であるが、食の安全性に対する考えは社会によって異なる。ゆえに、ある文化では安全と見なされていることでも、違う文化では危険と見なされるのはよくあることである。ただし、食への考え方は異なっても、その考え方には科学的根拠もあるのだということは常に意識しておかなければならない。(163字)